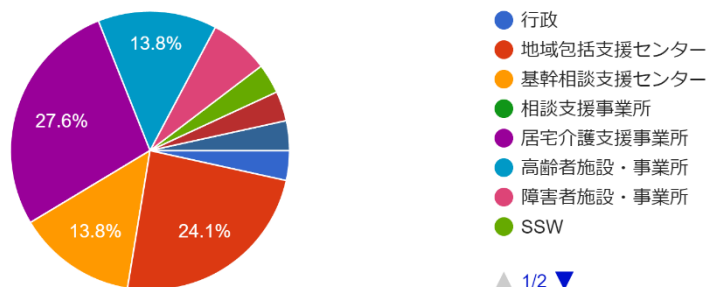


R5.9.17. 後見事務などにおける意思決定支援「基本研修」振り返り

職種

29件の回答



後見事務などにおける意思決定支援「基本研修」に参加して思ったこと、気づいたこと。
本人支援の難しさと奥深さを感じた。
意思を決定できように、様々な工夫をしてその支援を行なう大切さを改めて感じた。 時間を置いて待つことや、関係性などが大きく影響することに気づいた。
意思決定支援は、後見制度に携わる場合だけではないのだと学びました。意思決定支援は情報の提供をして選択してもらう事ではないと認識しました。
誘導な言葉がけをしないように日々関わる。 自己決定を尊重する。
本人と話し合うことが大切であり、その前提として病気や障害の理解や日頃の本人との関係性が大切であること。
私たちは自分のことを自分で決めること、本人の大切なことを守っていくことを一緒に話し合い頑張れることを提案、認める役割。そのためには普段から関りが必要だということ。
本人主体と言いつつも、良かれと思って話を進めて市馬が多かった。
よりよい生活を送る主体は支援が必要な人であることを忘れないように、そして、支援者が主語にならないように気をつけていきたいとおもう。支援が必要な人を中心にしたチーム 形成が心地よくできるように意識していきたい。
意思決定支援では、本人が自分の意思を表現するために環境の配慮が大切であると気づきました。
普段「本人主体」とか言ってたけれど、まだまだ「本人主体」でなかったと気づかされました。また、それは自分だけでなく、高齢者・障害者福祉分野全体もそうでないかと思いました。早く、本人に関わる専門職が『意思決定支援』以前に、今まであたりまえと思っていたことを「パラダイムシフト」することが必須であることを知り、反省と学びを繰り返す

<p>返しながら「本人主体」で関わられるようになることが大事だと思いました。</p>
<p>自分の事は自分で決める、本人の大切なことを守っていくことを一緒に話し合い、頑張れることを提案して決めたことを認めていく。大切なのは普段からの関りが必要。 研修がとても分かりやすくグループで意見交換できたことは良かったと思います。</p>
<p>本人が自己選択できるように体験して頂く機会の重要性に気付きました。また、意思を伝える手段として、一人一人に個別の関わりがあると思うので、多職種との連携を密に関わって行きたいと思います。</p>
<p>後見人がつくことで必要以上の代理決定を行っている可能性がある。 日頃の業務の中でも本人の意思にあっている支援が出来ているのか、振り返る機会となりました。本人の意思の確認方法について参考になりました。</p>
<p>代行決定について、最後の手法とは思っていたが、それでも諸外国では認められていないなど、極めて慎重に行わなければならない方法だと思った。 相談支援専門員として本人のために最善の選択を提示しようと努めているが、支援者の誘導にならないよう気をつけなければならないと思った。</p>
<p>決めたことではなく、決める過程の大切さを学びました。</p>
<p>本人の意思・思いの尊重がどこまで現実場面でできるか、できるかではなく優先の第一目だということを改めて再認識するのだが、場面や状況の段取りや回しやそちらに気を取られる。対面する一人一人に注意深くあたっていこうと思う。</p>
<p>後見事務における「意思決定支援」「表明された意思の実現」に向けた取り組みについて考えました。</p>
<p>本人との普段の関わりを大事にする事で、本人に合った意思決定が出来る環境づくりが必要であると理解する事が出来ました。</p>
<p>現場の利用者の方々には、現在そこに至るまでの個人的な事情などがあり居住されているのだと分かりました。本人だけでなく周囲の関係諸機関や家族親族等の思いがあつてのものと理解します。が、と同時に認知理解能力が難しいケースでは、更に関係者の適切な意思確認が必要だと感じました。</p>
<p>ロールプレイングで、時と場合によっては自分もこんな顔をしているかもしれないと思った。その人の「立場」にではなく、その人の「役」になってみることは自分を振り返るチャンスになると感じた。</p>
<p>温情主義になってないか？検証していく必要がある</p>
<p>本人の意思を尊重すると言いながら、こうした方が良いという考えを押し付けていたこともあったと感じた。これからは、本人とコミュニケーションをとれるように、日頃から関係性を作っていきたいと思った。</p>

本人の気持ちを大切にすることは色々な無意識を変えていくことが大切だと思った。
意思決定、代行決定支援のプロセスを踏まえ、支援しなければ、利用者本位ではなく、支援者やご家族本位の支援になると感じた。
意思決定支援のプロセス。意思決定支援ミーティングの趣旨を理解できた。本人がいないところで専門機関だけが集まり現状を確認し、支援の方向性を決定。現状では本来あるべきそこから先の本人が主体となって話し合える場がないのが常となっており、行政、地域包括支援センターとの考えや温度差を少しずつ改装できたらと感じた。
自分の好きなことを聴いてもらえるのは、嬉しいことだと思いました。 特別なことではなくて、日頃からの小さな積み重ねが大事なのかなと思います。
とても勉強になりました。本人の意思決定を支援するための気づきや振り返りを行うことができました。
意思を決定するための情報を相手がわかるように、表現や手段、ツールを選んで伝えていくことが大切で、それこそが私たち相談援助職の専門性であると思いました。
後見事務だけでなく、ケアマネとして、相談員として一番先に大切にしなければいけないことだと改めて感じました。

今後に向けて取り組みたいこと、抱負など
本人の自己決定能力の肯定と決定支援の双方から取り組みを進めたい。
まずは日頃の関係性構築のために、相手に耳を傾けたり受容することを改めて見直し取り組みたい。 また、病気や障害特性をしっかり把握することも、より気をつけたいと感じた。
もう少し意思決定支援について学びを深めたいです。
いつか成年後見人に取り組みたい。
本人にとってわかりやすい説明や話しやすい雰囲気づくりに心がけたいと思いました。
会議の時には、「実行可能な支援チェックポイント」に配慮しながら今回受けた研修を活かしていきたいと思います。
「ほんとにこれでいいのか」と思っても、本人が決めたことは一度はその通りに支援していくという姿勢を常に持つ！！
「知識」は活用できる環境が必要であると考えている。日々の仕事の中で、余裕をもって意識して関れる利用者から始めていきたいと思っています。また、「意思決定支援」については外部研修へ参加しないと触れることができないことなので、チームの中で本人の決定ではなくなりそうなときは、軌道修正ができる役割になれるとよいなあと思っています。 日頃から、自分自身も小さな選択を考えながら実践していきたいとおもいます。

意思決定支援が客観的に確認できるように、アセスメントシートを活用していきたい。
「本人主体」について、これからも学び続けながら、事業所での研修に活かし伝えて行きたいと思います。
実行可能な支援のチェックポイントや研修で学んだことを今後の支援に活かしていきたいと思います。
気持ちが変わることは当たり前なので、変わることを前提に柔軟に対応していきたいと思います。
意思決定支援のプロセスを参考にしながら意思の確認、話しやすい雰囲気作り等実践して取り組んでいきたいと思います。
本人中心を基本としつつ、全方向の人が笑顔になれるよう、最適な調整を行いたい。意思表示が難しい方でも何らかの方法で本人の意向が分かるよう、様々な方法を検討していきたい。
意思決定において、見える化など、本人が少しでも意思表示ができる環境を作っていきたい。
今後の取り組みは日々の中で上段で語った通りだが、後見事務は関心がある。実務研修・実習などがあるかどうか調べていきたい。
被後見人に対する情報の提供、記憶に残り、提供された情報が比較可能な状況にするにはどのようにしたらいいのか、今後取り組んでいきたいと考えています。
限られた時間の中で、手間を惜しまず、利用者との関わりや意思決定がしやすい環境づくりを行っていきたいと考えます。
現在、関わっている方々の事情を知りえているわけではない立場なので、利用者の方々の今現在の思いや願い・希望などを実現できるように一つ一つのケースを大切に捉えていきたいと思いました。
今の私が今回の研修に参加して感じたことと、何年後かの私が感じることは違うかもしれない。一度参加して終わりではなく、いろいろな研修を受け続けたいと思う。
今後とも本人のでありたい。
本人の考えていること、思っていることを時間をかけてきくことができるように、時間の調整をしていきたいと思った。
本人の意思を尊重出来るような支援を行ってきたい。
意思決定、代行決定支援に関する勉強会を職場ではじめ、可能な限り、利用者本位（意思決定）のサービス提供ができるよう意思決定支援を実践したい。
介護支援専門員として意思決定支援に携わっている。担当者会議でも本人が話しやすい環境設定を改めていきたい。また、同職種でも意思決定支援に関して現実的なことと、支援側

<p>の様々な機関、環境、本来はこうあるべきではという葛藤の元悩みながら支援している者も多く、研修内容をフィードバックし一緒に考えていきたい。</p>
<p>その方が大事にしていることを大事にし続けられるように、一緒に考えさせてもらいたいです。また、「その方におしえてもらう」という気持ちで、居心地の良い環境を作っていくように心がけたいと思います。</p>
<p>本人と話し合うこと、本人に分かりやすく伝えること。</p>
<p>障害のある方にたいしてだけでなく、所謂普通の人、ノーマルと言われている人にもこちらの真意が伝わらないことはよくあります。伝える努力というか、伝える技術を磨くにはどうしたらよいか、考えるところです。</p>
<p>ついつい急いで先回りしてしまうこともあります。本人の気持ちを出してもらえるように、関わり方を工夫し行きたいと思います。</p> <p>待つことも無駄ではないとゆっくり、急がず、急がせずやっていきたいと思います。</p>

<p>その他、なんでも。</p>
<p>会場で受講しなかったのですが、今回は Zoom でした。家庭の事情で、家族の前でグループワークしていたので、何となく気恥ずかしく、思うように発言できなかったのが残念でした。やはり、会場に行けばよかったと反省しました。</p>
<p>グループワークはとても勉強になりました。自分の意欲換気になりました。</p>
<p>画像事例だと目線や位置によってより威圧的な印象があり気を付けようと思いました。</p>
<p>わかったつもりをできるように、何度でも繰り返して研修へ参加していきたいと考えています。いつも、新たな気づきや日頃の仕事の振り返りの機会を作っていただき、ありがとうございます。</p>
<p>多職種の方と研修を通して話す機会があり、良い刺激になりました。</p>
<p>関係者の話を聞いていくと家族の意向が強いことがある。本人中心としつつも、その意向を無視することは出来ず、また家族の協力がないと達成できないこともあり、調整に悩むことがある。</p> <p>後見人とは本人のためにいる存在であると思っていたし大体はそうであるのだろうが、代理権や取消権のために後見人の選定を受けようとするケースを聞き、その存在、影響力の大きさを感じた。</p>
<p>映画「ミステリと言う勿れ」を研修会の夜に観ました。</p> <p>一場面で、女性の意思表示（決定）ができなかったこと、男性が良かれと思って提案してきたこと（時代）について、整くんが、説くシーンがありました。</p>

<p>後見事務やケースワークの技術のみではなく、社会全体に問われている課題？かなとも思いました。「女性の意思表示（決定）ができなかったこと」は、それだけのことではなく、確かな権利侵害かと思います。そう考えると、意思決定の機会を作らなかったことも同じですね。温情主義が日本的と思うところもありますが、考え方を変えていかなければと深く思いました。</p>
<p>国の審議会で検討されていることや方向などの研修会</p>
<p>明日は我が身。自分が支援される当事者になる前に、意思決定支援について、職員と学びを深め、皆で意思決定支援を実践したい。</p>
<p>会場で参加させていただき、とても良い時間を過ごすことができました。 どうもありがとうございました。 今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>また同じような研修があればぜひ参加したいです。ありがとうございました。</p>